

農家のニーズを理解し、技術開発につなげる

「第1回スマート農業異業種連携プロジェクト」実施

開催日時：7月30日(火曜) 場所：Ambitious Farm(株)

中小機構(独立行政法人中小企業基盤整備機構)北海道本部は、ビジネスマッチングサイトJ-GoodTechを活用して、農業分野でのマッチングをサポートし、持続可能な農業の実現を目指す「スマート農業異業種連携プロジェクト」を実施します。

農業の現場では、人手不足の解消や安定した生産体制確立のため、IoT、ドローン、AI、ロボットなどの技術導入への関心が高まっています。しかし現状としては、これらの技術を開発する企業に農業現場の課題が正確に伝わっておらず、ニーズに応えきれていない状況です。

今般、Ambitious Farm株式会社と協同し、「第1回スマート農業異業種連携プロジェクト」を以下の通り実施します。実際に農業現場を見て、農作業を体験することで相互理解を促進し、農家のニーズに応える的確な提案を行います。本プロジェクトの趣旨にご賛同いただける受入農家と参加企業の募集を開始します。

- ◆名称： 第1回スマート農業異業種連携プロジェクト
- ◆日時： 令和元年7月30日(火曜)8時~14時
- ◆会場： Ambitious Farm株式会社(代表取締役：柏村 章夫 氏)
(北海道江別市豊幌 26-44)
- ◆内容： 8:00 現地集合
(1) ミニトマト・ブロッコリー収穫作業体験
(2) 昼食意見交換会
14:00 終了後、現地解散
- ◆参加方法： 下記お問い合わせ先へ、個別にご連絡ください。
※詳細は別紙チラシを参照
- ◆申込期限： 令和元年7月23日(火曜)

<J-GoodTech (ジェグテック)>

ジェグテックは、中小機構が運営する、日本の中小企業と国内大手企業・海外企業をつなぐビジネスマッチングサイトです。国内外の企業へ情報を発信し、最適なビジネスパートナーを見つけ、製品開発や新規取引に結びつけられるように登録企業を支援します。自社製品や技術情報のプロモーション、ニーズに合わせた法人情報の検索ができるだけでなく、登録企業同士であれば、直接の情報交換やマッチングも可能です。さらには、コーディネーターによるマッチングサポートも実施しています。

URL: <https://jgoodtech.jp/pub/ja/>

<独立行政法人中小企業基盤整備機構（中小機構）>

中小機構は、日本の中小企業政策の総合的かつ中核的な実施機関として、全国の中小企業への支援をトータルで行う経済産業省所管の独立行政法人です。生産性向上や事業承継など様々な課題を抱える中小企業に対して、販路開拓、海外展開、人材育成、事業引継ぎ、その他経営面での助言、情報提供、並びに共済制度、ファンドを通じた資金提供など多様な支援を実施しています。

<本件に関するお問い合わせ先>

独立行政法人 中小企業基盤整備機構 北海道本部

企業支援部 支援推進課 （担当：松代、秋永）

住所：札幌市中央区北2条西1丁目1-7 ORE札幌ビル6F

電話：011-210-7472（ダイヤルイン）

スマート農業 異業種連携プロジェクト



農業の現場においては、人手不足の解消や安定した生産体制確立のため、現場が抱えるニーズに対する新たな技術の導入などに関心が高まっていますが、IoT、ドローン、AI、ロボットなどの新たな技術を開発する企業には、農業現場の課題が正確に伝わっていないため、ニーズに応えきれていないのが現状です。そこで、中小機構 北海道本部の協力を得て、実際に現場を見て、農作業を体験することで相互理解を促進し、ニーズに対する的確な提案を行う『スマート農業異業種連携プロジェクト』を以下の通り実施することとなりました。農作業体験に興味のあるものづくり企業を募集いたします。



Ambitious Farmさんで農作業を体験します！



会場：Ambitious Farm株式会社
住所：江別市豊幌26-44
日時：令和元年7月30日
8:00現地集合→ミニトマト・ブロッコリー収穫作業体験→昼食意見交換会→14:00現地解散
申込方法：ジェグスマ会員には、ジェグテックからニーズ発信されています。ニーズ発信に書かれている申込方法をご確認ください。

Ambitious Farmとは

次世代が魅力的に感じる農業の実践をコンセプトに、少量多品目栽培で野菜を年間70品目生産しています。野菜直売所の運営もしており、江別市を中心にマルシェの出店事業も行っています。農業の新しい価値を創造していきます。

代表者からの メッセージ

持続可能な農業を行うために、スマート農業に取り組みたいと思っています。このジェグスマを通じて、同じ志を持つ協力企業様との出会いを希望しています。



Ambitious Farmさんが解決したい課題です！



ディープラーニングで
生産効率を向上させたい！

施設園芸の生産効率を向上させたいニーズがあります。施設内の環境データを取得するところからはじめ、ディープラーニングによる追肥の判断など栽培環境の適正化をはかり、コスト削減を目指したいと考えています。



ロボット技術で
自動化省力化を進めたい！

短期間に集中する収穫作業の自動化・省力化を促進したいニーズがあります。他にも、ブロッコリーの除草作業や培土、追肥、葉面散布など自動化のニーズは多岐に渡ります。